

令和6年度第2回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和6年11月26日（火） 午前10時～正午

■開催場所：京都市役所本庁舎4階 正庁の間

■議題：(1) 次期京都市市民参加推進計画の策定スケジュールについて
(2) 第3期京都市市民参加推進計画に対する評価について
(3) 令和6年度の市民公募委員サロンについて
(4) 市民参加の裾野拡大の取組について

■報告事項：(1) 市民参加に関する主な新しい事業について
(2) 新たに設置された附属機関等について

■出席者：市民参加推進フォーラム委員 11名

（荒木委員、乾委員、白水委員、千葉委員、並木委員、西澤委員、平野委員、松井委員、村田委員、森実委員、森田委員）

■特記事項：公開で開催（傍聴者なし）

【議事内容】

1 開 会

（SDGs・市民協働推進部長あいさつ）

2 議 題

(1) 次期京都市市民参加推進計画の策定スケジュールについて

＜乾座長＞

次期京都市市民参加推進計画の策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞

（資料2に基づき説明）

＜西澤委員＞

次期市民参加推進計画の計画期間も5年か。

＜事務局＞

京都市市民参加推進条例において、5年を超えない期間ごとに見直さなければならないと規定しているため、5年を予定している。

＜並木委員＞

次期計画が長期ビジョンの下に位置づけられるのであれば、方向性をどう合わせていくのか。

＜事務局＞

長期ビジョンについては、現在、審議会で議論が進められているところであり、内容については適宜共有させていただく。

＜村田副座長＞

新京都戦略は、長期的な戦略ではないという理解で良いか。また、こういった内容のものなのか。

<事務局>

戦略は数年スパンのものになる予定で、12月に骨子が公表されるため、追ってお知らせする。

<森実委員>

市民アンケートについて、民間の調査会社のモニターのような日常的にアンケートに答えている方以外の意見も吸い上げる仕組みは取り入れないのか。

<事務局>

市民アンケートに加えて、パブリック・コメントなどにより幅広く市民意見を聴取する予定。

<乾座長>

前回のアンケート実施時にも、調査会社のモニターの活用について議論があったが、回答者の年齢構成等は、調査会社のモニターの方が偏りがないということもあり、結果として問題ないという結論になった。

(2) 第3期京都市市民参加推進計画に対する評価について

<事務局>

(資料3に基づき説明)

<乾座長>

アンケートについて、一般的には対象が500人くらいだと±5%、1,200~1,300人くらいだと±3%程度の誤差になると言われており、誤差を少なくするのは、どこまで予算をかけるかによってくる。ただ、平均すると意見の個性が見えなくなるところがあるので、それをどう拾うか。

<荒木委員>

ワークシート本体や各施策に紐づく京都市の事業・取組にはどのようなものが入るのか。

<事務局>

ワークシート本体には、指標を拾えるものを記載し、各施策に紐づく京都市の事業・取組のほうには、指標は拾いづらいが類似する取組がある場合に記載してお渡しするイメージ。

<荒木委員>

事業の予算を個別に出してもらえたりもするのか。

<事務局>

事業によっては、予算がないものや、他の事業と予算が一緒になっているケースもあるため、全てをお示しすることは難しいと思う。

<乾座長>

市が公開している事務事業評価なども参考になるのではないかな。

<荒木委員>

後日事務局からいただく資料のほか、必要な情報は各委員が調査するというので良いかな。

<事務局>

御認識のとおりである。ただ、不明点があれば、事務局まで問合せいただきたい。

計画期間に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令された時期などもあり、市民参加の取組は対面で行われることが多く、感染防止を目的に取組を休止するなど、停滞していたと考えられる時期もあるため、そのあたりも踏まえて評価いただきたい。

<並木委員>

市民アンケートについて、新たに追加する10問は、次期計画で起こしたい変化も見越して設定することも想定されていると思うが、実施時期が来年4月のため、反映するタイミングが難しい。次期計画の方向性を検討する中で、並行してアンケートの内容も考えるようなイメージか。

<事務局>

御認識のとおり。アンケート項目については次回・次々回の会議で議論し、3月中に固めた後、4月に実施し、5月にはアンケート結果を出す想定。10～11月頃の提言提出まで一定の期間もあることから、アンケート結果を反映させることは可能である。

<乾座長>

現行計画の評価だけでなく、市民参加推進計画の今後の方向性等も念頭に置き、変化が見えたほうがいい質問も検討いただきたい。

<事務局>

今後の進め方だが、概ね12月6日までに個人での評価作業を完了させ、その後各グループで意見交換をしてブラッシュアップし、12月20日までに提出をお願いしたい。

今から、評価の方向性や今後のスケジュール等、進め方について各グループで話し合ってもらいたい。本日欠席の委員には、事務局から本日の会議内容を説明し、連絡先の橋渡しをする。

(グループごとに意見交換)

<平野委員>

ワークシート本体に記載される実績について、それぞれ目標値や基準はあるのか。

<乾座長>

現行計画の中で定めている指標はあるが、個々の事業については設定されていないものも多い。目標設定があるものについては、事務局からお示しする。

(3) 令和6年度の市民公募委員サロンについて

<事務局>

(資料4に基づき説明)

<乾座長>

従来の市民公募委員サロンを発展させ、施策7「次世代につながる市政参加」とリンクしたものになったと思う。

<白水委員>

学生に対して、事前に他の参加者が関わっている政策や活動について情報提供することで、当日スムーズに話が進むと思うが、何か予定しているのか。

<事務局>

参加する学生に対して、何らか事前に周知する方向で検討する。

<乾座長>

自分たちの活動をPRできるなど、実践側の学生に来てもらいやすくする仕掛けが必要。また、市民公募委員との交流を通じて、お互いの知らないことを知れる機会になれば良い。学まちコラボなど、実践側の学生は参加してもらえそうか。

<事務局>

学まちコラボ事業や政策研究交流大会に参加する学生には声をかける予定。12月にQUESTIONで学生向けのタウンミーティングが開催される予定で、本イベントと親和性の高いと思うので、そちらでも声をかける予定。

<乾座長>

以前、学まちコラボの学生にインタビューした際、自分たちの活動を知ってもらいたいと言っていた。そういった学生が参加してくれるとピッチタイムも盛り上がると思う。

<事務局>

最低でも2～3人参加してもらえる学生が固まれば、このままピッチタイムで良いと思う。一方で、参加してもらえなかった場合は代案を考えても良いと思う。

<森田委員>

私は他の附属機関等にも所属しているが、市民公募委員は年配の方が多いように思う。これまでの市民公募委員サロンの参加状況は。

<乾座長>

昨年度は、対面とリモートのハイブリッドで実施したが、若い世代の方も含め、老若男女が参加していた。

<森田委員>

年配の方は、色々役を務めている方が多く、その方の話が中心になりがちなので、若い世代の方が話しづらい状況にならないよう注意が必要だと思う。

<荒木委員>

広報について、チラシはどこに配架するのか。

<事務局>

SNSなどオンラインやメールでデータを活用した周知を中心に考えており、市政参加とまちづくりポータルサイト「みんなでつくる京都」への掲載や、KYO-DENTでのニュース配信、関係各所へのメール周知などを予定している。

<乾座長>

公務員志望の学生への周知や、12月に開催される政策研究交流大会の場でPRするのも良い。教員もその場にいる。

<村田副座長>

学生は忙しいので、早めに広報を始めた方が良い。

<乾座長>

次に、当日の役割を決めたいと思う。どんな役割が必要か。

<事務局>

冒頭に乾座長からご挨拶をいただきたいのと、全体の進行役の他、事後発信も視野に入れてグラフィックレコーディングもあれば良いのでは。また、第二部の交流会を仕切る方も必要だと思う。その他の委員の皆さんには、各テーブルに入ってくださいイメージ。

(フォーラム委員間で相談)

<乾座長>

グラフィックレコーディングは白水副座長、第一部の進行は村田副座長、第二部の進行は並木委員にお願いする。

(4) 市政参加の裾野拡大の取組について

<事務局>

(資料5～6に基づき説明)

並木委員からロジックモデルについてご意見をいただいているため、補足をお願いしたい。

<並木委員>

(P13について説明)

今回の西京高校と京都奏和高校をモデルとしたロジックモデルは、直接的アウトカムについては一定達成しているが、間接的アウトカム（保護者・教員など）や中長期アウトカムへの影響については、分析はできていない。

コミュニティ尺度のような客観的な指標で、当事者の学びが深まったか、それ以外の関係者に変化があったのか等について議論するもの良いのではないか。

<森田委員>

アウトカムの短期、中期、長期はそれぞれどのくらいを指すのか。また、直接的アウトカムと間接的アウトカムの違いは何か。

<並木委員>

一般的に、短期は1年程度、中期は3～5年程度、長期は10年程度を指す。

また、直接的というのは、今回の高校生のように、主に変化が起きて欲しい人を指し、間接的というのは、先生や保護者など、主に変化が起きてほしい人の周りの人を意味している。

<白水委員>

アンケートについて、まちづくり活動といっても幅広く、参加といっても運営に携わったり情報収集する等、様々な関わり方があるため、説明書きをつけた方が良い。

また、アンケート結果について、まちの課題やまちづくり活動への関心は高まった一方で、参加することに対する意欲が低くなっているが、アンケートを上手く取れていない可能性があるのではないか。

<事務局>

昨年度のアンケートでは、参加することについて「どちらともいえない」と回答した層が、最も多く、関心は高まったが、参加となると少しハードルがある。前回は、「まちづくり活動」について、地域清掃活動やボランティアを例示としてつけていた。基本的には前回と同じ項目を聞く予定なので、設問の立て方の中で聞き方は工夫する。

<白水委員>

まちづくり活動が何を指すのか定義付けたほうがよい。

<乾座長>

アンケートを実施するにあたり、仮説を立て、ロジックモデル的に実施したほうがよい。

<西澤委員>

短期アウトカムの設定だけだと、施策をやった感だけになりそうなのが怖い。間接的アウトカムや中長期アウトカムを設定するのが理想だと思う。

<乾座長>

中期アウトカムをどう設定するかが重要だと思う。3～5年後の理想の姿を意識する必要がある。例えば、高校の探究学習で地域をテーマにしているものがどれだけ増えたか、市民

公募委員の大学生がどれだけ増えたかなども、中期アウトカムに設定できるかもしれない。

＜西澤委員＞

中高生が大人になった時や、今の小中高の学生の１０年後に、どんな活動をしているか等を見れたら良い。難しいとは思うが。中期アウトカムは、途中で施策の軌道修正ができるよう柔軟に設定する必要があると思う。

＜並木委員＞

施策を進めていく中で、中期アウトカムを調整するのは十分あり得ること。

3 報告事項

(1) 市民参加に関する主な新しい事業について

＜事務局＞

（資料７に基づき説明）

(2) 新たに設置された附属機関等について

＜事務局＞

（資料８に基づき説明）

＜乾座長＞

質問等がないため、本日予定していた議題・報告事項は全て終了した。

＜事務局＞

第３期京都市市民参加推進計画の評価にあたり、ワークシートの提出は１２月２０日（金）までに事務局へ提出いただきたい。

以上で本日の第２回会議を終了する。